

# きずな

2009年11月26日

NO 770

赤旗井原出張所

井原市井原町103 (TEL 62-6200)

日本共産党井原市委員会（森本ふみお委員長）の6人が10月29日井原市役所で瀧本豊文井原市長に「平成22年度予算編成にあたっての要望書」を手渡し、内容の説明をするなど1時間40分にわたって懇談しました。先週（769号）に続いて要望項目をお知らせいたします。

## 【建設経済部関係】（26項目）

- 市民の安全・安心のため、崩落などの危険個所の総点検をすること。
- 井原大橋右岸の橋げたに鳩が巣くろい、住民が糞公害に悩んでいる。左岸のようにネットを張るよう県に要望すること。
- 集落営農等を推進・強化すること。
- 入札制度の透明性確保するため、より一層の改善をすること。
- 市営住宅の入・退去時の管理・運営の改善と施設の早めの営繕をすること。
- 木之子町にある雇用促進住宅も廃止の対象になっている。国や県に対して、廃止しないよう要望すること。
- グランドゴルフ場やゲートボール場など高齢者のための施設を早期に設置すること。
- 雇用及び中小企業の実態調査を行い、雇用と産業の活性化策をすすめること。
- 大経営だけを対象とした品目横断的経営安定対策をやめ、家族経営を守り、全ての農産物の価格保障をするよう国に申し入れること。
- 地産地消を推進し、食育に積極的に取り組むこと。
- 井原、芳井、美星の特産品を個別一体的に捉え、井原の特産品として全国に発信すること。
- 都市部(井原地域)と農村部(芳井、美星地域)の交流をより一層推進すること。
- 米輸入を削減・廃止し、農作物の価格・所得保障を行うよう政府に要求すること。
- 新農政、新農業基本法実施に伴い、より一層深刻になった農業(農家)を守っていくため、自治体として、独自の農政を進めること。
- イノシシ・サル及びヌートリアの被害対策を改善・強化すること。
- 空き店舗対策、駐車場対策など商店街の活性化をはかるための支援を行うこと。
- 公園管理委託料を増額すること。
- 美星町から井原町への直通バス路線を増便すること。
- 生活道路や水路改修など生活に密着した公共工事を増やし、地元業者への優先発注をおこなうこと。
- 井原線高架下の側道を整備・改修すること。
- 市内の道路工事箇所の通行の安全確保のため、業者を強力に指導すること。また、通行止めにする場合は、関係者の意見をよく聞き実施させること。
- 定期的に市内の公園や通行上の危険箇所を総点検し、早急に適切な手立てを



&gt;&gt;&gt;

&gt;&gt;&gt; 講ずること。

- 定期的に市道の外側線を総点検し、不備な箇所は線を引き直すなどの整備をすること。
- Uターン、Iターン者の支援制度を実施すること。
- 井原駅から田中美術館までの間に、物産・土産店と案内所や公衆便所を兼ねた休憩場所を設置すること。
- 明るいまちづくりと市民の安全を守るため、都市照明(防犯灯など)の早期全面点検と整備をおこなうこと。



市長に要望書を渡す  
森本市議(左)

## 【水道部関係】（4項目）

- 美星地区の水道料金を井原地区と同一にすること。
- 独身者や高齢者の二人暮らし世帯に対し、上水道及び簡易水道の基本料金の使用量を細分化すること。
- 湯水などで水の供給が十分できない時のために、市内で新たな水源を確保し、安定的な水の確保をおこなうこと。
- 高齢者の一人暮らし世帯や高齢者夫婦のみ世帯に対し、公共下水道の工事費や負担金等の補助をおこなうこと。



## 【市民病院関係】（13項目）

- 新型インフルエンザの院内での感染予防と、患者の受け入れ態勢に万全の対策を講ずること。
- 卒後研修の期間として、医師を受け入れられる病院として充実させること。
- 井原市民病院内に職員で構成する医師、看護師等対策委員会というような組織を立ち上げ、専ら医師、看護師等の確保のための情報収集を行い、情報に対する対応も、対策委員会のメンバーが中心になって行えるくらいの組織にすること。
- 上記の組織ができるできないに関係なく、常時さまざまな媒体を利用して、医師、看護師等を募集していることを広報すること。

また、市内はもとより、県内外からの紹介もお願いする。特に医師については、市内の開業医の先生方をお願いして、医師を紹介してもらうよう最大限の努力をすること。

2面左上へつづく

## 1面右下よりつづく

- 医師、看護師等の確保のため紹介をしていた方に報奨（お礼）金を支給するという制度を作ること。
- 公的病院としての理念・位置づけを明確にし、地域の中核病院としての使命を果たすこと。
- 看護師の増員などスタッフの増員をはかり、患者サービスの向上をはかること。
- 医療体制に対し、依然として市民から多くの苦情が寄せられている。医師を早急に確保し、患者さんたちが安心して医療が受けられるような体制にすること。また、医師不足解消のために長期展望に立って、市独自で医師養成をするシステムの構築に最大限努力すること。
- 新薬より購入価格の安い後発薬に切り替える努力を一層強めること。
- 脳卒中に対する医療体制を充実すること。
- 治療内容がよく分かるように、領収書の改善をすること。患者への付き添いを家族に安易に依頼しないこと。
- 「ご意見箱」の設置を増やし、患者や家族をはじめ住民の声を吸い上げる条件整備をすること。
- 骨塩量測定装置を有効利用するため保健センターと連携し、市が検診料助成をおこない40歳以上のすべての女性に骨粗鬆症検診を実施すること。



## 【教育委員会関係】（31項目）

- 新型インフルエンザの幼・小・中・高校での感染予防と、発生時の感染拡大回避態勢に万全の対策を講じること。
- 給食を平成22年度で全ての幼稚園で実施すること。
- 公民館主事を平成22年度で全ての地区公民館に配置すること。
- 学校図書館の図書充足率が100%になっていない学校を、早急に100%にすること。
- 井原市立高等学校の環境の整備と改善・充実すること。
- 市立図書館の図書の貸し出し冊数と貸し出し日数の拡大をすること。
- 小・中学校の屋内運動場のトイレを洋式トイレに改善すること。
- 憲法に基づく教育行政をすすめること。
- 発達障害児の支援を、ゼロ歳から就労まで行うこと。
- 幼稚園、小学校、中学校、市立高等学校の敷地内を禁煙にすること。
- 学校教職員専用の男女別トイレや女性教員の更衣室を設置すること。
- 学校プールの総点検を行い、危険箇所は事故等が起きる前に改善すること。また、職員用のプール更衣室を作ること。

&gt;&gt;&gt;

- >>> ● 全校に子ども用の更衣室を設置すること。
- 全国学力学習状況調査・教員免許更新制を中止するよう国に意見をあげること。
- 市内で不審者の出没があとを絶たない。児童生徒の見守り隊を全体的に充実・強化すること。
- 井原市を他市に宣伝する目玉が少ない。旧山陽道に面した井原、芳井、美星の興譲館高校との関わりを調査・研究し、改めて歴史を掘り起こし、井原市ここにありと全国発信すること。
- 文化予算を増やし文化団体の育成に努め、市民の文化活動を盛んにすること。
- 早期に、すべての公立幼稚園で3歳児の受け入れを行うこと。
- 全国的には、学校でのいじめや、いじめによる自殺が増えています。本市でも学校、地域、教育委員会が連携を密にし、いじめなどが起きないよう万全の策を講じること。不幸にしていじめがあった場合は、担任の教師一人に任すのではなく、学校全体の問題としてこれらの根絶にあたること。
- 給食センターでの地産地消の拡大を。また、将来にわたって民間委託をしないこと。
- アクティブライフ井原は、生涯学習の場であり、市民のよく集る場所でもあります。また、さまざまな障害のある人たちも会場を利用しています。各部屋に行くため、廊下の壁などに「てすり」を取り付けること。
- 小・中学校の学級生徒数を30人以下学級にすると同時に、少人数指導のために教職員を加配すること。
- 市や教育委員会などが主催する演劇、音楽会などのとき託児所を開設し、子育て世代の方が安心して鑑賞できる条件をつくること。
- 市内全校に、掛け持ちでない学校司書を配置すること。また、身分の確立のため、正規職員化をはかること。
- 全幼稚園に、小学校長の兼務園長でない専任園長を配置すること。
- 各校の各階に男女別洋式水洗トイレを設置すると同時に、トイレを改善すること。
- 校舎の大規模改修を計画通り実現すること。また、各校の危険箇所を総点検し、危険箇所や整備不良箇所については、早急に対応すること。
- 井原市史編纂室の多くの古文書を収蔵する場所を確保すること。また、これらの資料を誰でも自由に閲覧できるようにするため「古文書センター」（仮称）を設置すること。
- 教員が教員本来の任務が遂行できる条件づくりのため、小・中学校に校務員を配置すること。
- 教職員が、必要な消耗品が買えるだけの予算づけをおこなうこと。
- 日の丸・君が代の強制を行わず、憲法を尊重し「こどもの権利条約」の精神に基づく教育をすすめること。

